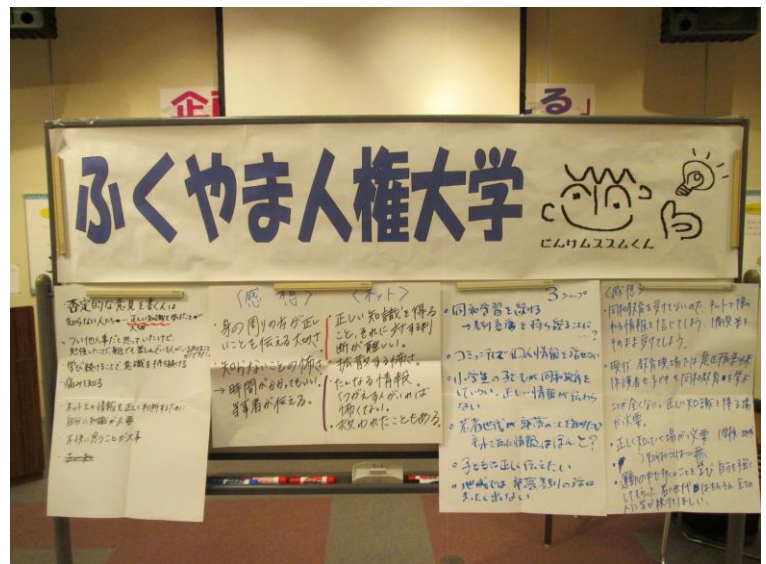


2017 ふくやま人権大学

報告集



福山市

閉講記念講演会

日時：2017年8月26日

テーマ：「行政における同和对策事業は協働のまちづくりの出発でした」

講師：小川 喜代光さん（前 全国児童福祉安全委員会連絡協議会 会長）

ゼミ

同和問題入門コース「私のこころを育てよう！～共に歩むために～」

第1回 「はじめの第一歩！！～同和問題ってなあに？～」

日時：2017年9月8日 講師：人権平和資料館職員

第2回「思いを育む次の一歩！～今共に生きる私たちと同和問題～」

日時：2017年9月15日 講師：人権・生涯学習課職員，平賀 創さん

第3回「私らしく生きるってどういうこと？～共に受け止め，共に歩む～」

日時：2017年9月22日 講師：内屋 綾さん（部落解放同盟福岡市協議会青年部）

第4回「ここから明日へつながる一歩！！～私のこころを育てよう～」

日時：2017年9月29日 内容：グループワーク

障がい者の人権コース「障がい者問題から学ぶ 人の生き方 社会の在り方」

第1回 「福祉車両との出会いから」

日時：2017年10月6日 講師：小林 勇 さん（福祉車両のオートフォーラム 代表取締役）

第2回「人と人との出会いから」

日時：2017年10月13日 講師：山本 和志 さん（有限会社スリーホープ 代表取締役）

第3回「障がい者差別とたたかいて，権利確立の歩み」

日時：2017年10月20日 講師：藤井 貢 さん（福山市視覚障害者福祉協会）

第4回「フィールドワーク」

日時：2017年11月1日

子どもの人権コース「子どもの“生きる力”になれるゼミ」

第1回 「子どもの現状 ① ～ 学習支援の取り組みから ～」

日時：2017年11月7日 講師：木村 素子さん（NPO 法人学習支援ヴァパウス代表者）

第2回「子どもの現状 ② ～子どもの居場所づくりのとりくみから～」

日時：2017年11月14日

講師：佐藤 勝則さん（ゼノ少年牧場子どもの未来応援事業未来も笑おうプロジェクト プロジェクトリーダー）

第3回「先生・家庭・窓口の人をサポート ～ LGBT 当事者が語る“知ってほしいこと”～」

日時：2017年11月21日 講師：井上 鈴佳さん（LGBT 当事者の元保健室の先生）

第4回「私はどうする？ ～子どもたちの生きる社会の中で～」

日時：2017年11月28日 内容：グループワーク

閉講式

日時：2017年12月19日 テーマ：「学習から，行動へ」 内容：グループワーク

研究講座「1UPゼミ」

第1回 課題提起と交流「人間のありよう～内省する心～」 日時 2018年2月7日

第2回 研究テーマ「オリンピックと人権」 日時：2018年3月8日

人権大学 開講式

「行政における同和対策事業は協働のまちづくりの出発でした」

「ふくやま人権大学 2017」開講の行事として開講式を実施しました。当日は多くの参加者のもと、福山市の人権尊重のまちづくりに向けた施策の先導的役割を果たしてきた、同和問題解決へ向けた取組みについて学習を深めました。

テーマ：「行政における同和対策事業は協働のまちづくりの出発でした」

講師：小川 喜代光さん（前 全国児童福祉安全委員会連絡協議会 会長）

行政の同和対策事業での取組みや当時の差別実態、現在の人権尊重のまちづくりについてお話いただきました。

水平社創立後、憲法は現実には市民的権利と自由が完全に保障されていないということで、人権尊重の理念を大事にしてほしいと同和問題の解決を求める国民運動が意見具申し、同和対策審議会答申が出されるに至りました。福山市では国の動きを受けて、福山市同和対策審議会が設置され、行政体制が整備されていきました。当時の差別の実態は、生活環境だけでなく、教育、職業、などさまざまな点で一般の地域との差や差別が歴然としていたそうです。しかし、部落解放運動の活動の中には、福山市全体のまちづくりの活動につながっているものが多くあり、福山市の協働のまちづくりの先がけになっていると言えるそうです。

講演の中で、同和問題は、市民生活全般に深く関わるものであり、自分とは無関係なものではない。問題を解決するには、差別は許せないということ認識し、自身の課題であるという意識を持つとともに、差別を見抜く力を養うのも重要であり、今後も地域住民の意見を集約する市民組織と緊密な連携を図りながら取り組んでいく必要がある、とお話しされました。



また、開講式の中で「ふくやま人権大学 2017」のゼミについても説明を行い、参加者の募集を行いました。



「私のこころを育てよう！～共に歩むために～」

■ねらい

同和問題について正しいことを知り、改めて「自分らしく生きるということ」について考える。

■はじめの第1歩！！～同和問題ってなあに？～

講師 寺地 靖仁さん（人権平和資料館副館長）

同和問題入門コースのスタート。緊張感を持って臨みました。同和問題をより理解してもらうために、寺地副館長からわかりやすくお話ししていただきました。1994年8月、福山市人権平和資料館が開館し、1階は平和をテーマにした福山空襲の実相を中心に展示、2階は人権をテーマにした部落の歴史と解放の歩みを中心に展示しています。お話の後、実際に資料館を見学し、グループワークで感想や参加した思いなど意見交流を行いました。

若年層から70歳代までの参加があり、様々な年代の方と話すことができよかった。同和問題入門コースを積極的に行ってほしいとのアンケートの回答を多くいただきました。短時間ですが充実した交流の時間となりました。



■思いを育む次の1歩！！～今共に生きる私たちと同和問題～

講師 高橋 雅和さん（人権生涯学習課）、平賀 創さん

登録型

本人通知制度が
もっと市民に
浸透しなきゃね

みんなで人権問題を考え
なくちゃね！
家庭でも、会社でも、地
域でも、み～んなでね

最近は、インターネットな
んかで部落の地名や名前を
のせて、差別が永久に画面
に残ってしまうぜよ！

まず実情をしっかり感じて、
できることから参加しよう！
住民学習等に積極的に！

共に受け止め



■「私らしく生きるってどういうこと?～共に受け止め、共に歩む～」 - 若者の立場から見える部落差別 - 講師 内屋 綾 さん (部落解放同盟福岡市協議会青年部)

「寝た子を起すな」の考えだった内屋 綾さん。小学生の時、母から部落差別について教わり、「何だろう」という疑問から「自分も差別されるかもしれない」という恐怖に変わっていったそうです。しかし自身の差別体験を通じて、今まで差別に対して目をそむけ、逃げることしかできなかった自分に後悔し、向き合うためにも勉強を始められました。

「いろんな間違っただ知識が飛び交っている世の中で、正しい知識を持ったうえで自分の生き方を決めていく。自分自身が差別しない生き方を選ぶために学び続けていきたいです。」ということ強く訴えられ、講演を締めくくりました。



参加者からは、「知識を身につけ、差別をしない生き方を選びたい」「学ぶだけではなく、学び続けていきたい」という声を聞くことができ、自分自身を改めて見つめなおし、知る・学ぶことの大切さを再認識する回となりました。

■ここから明日へつながる1歩!!～私のところを育てよう～

第1回から第3回までのまとめとして、意見を交流しあうグループワークを行いました。同和問題入門コースを受講してみたの感想、印象に残っていることや、同和問題と向き合うにあたり何が大切なのかをみんなで考えました。明日へつながる一歩を踏み出せたのではないのでしょうか。

大切なこと

- ★知識を身につけ、正しく認識し判断すること
- ★相手を傷つけないためにも知った上で向き合うこと
- ★相手の話を傾聴すること
- ★ひとりだけではなくみんなで学習すること

思うだけではダメ。行動につなげよう!



成果

- ・毎年参加してくださっている方に加え、若年層の参加者も多く、世代を超えて意見交流を行うことができた。
- ・人権問題、特に同和問題についてみんなで学びを深め、行動していくことの大切さを改めて感じる事ができた。

今まで同和問題について言葉しか知りませんでした。何も知らなければ何とも思わずに差別をしていたかもしれないと思うと、正しく知れたこと、そしていろんな世代の方と意見を交えながら次の行動を考えられたことはとても大きな一歩になりました! (担当者より)



共に歩む

「障がい者問題から学ぶ人の生き方社会の在り方」

■ねらい

障がい者の社会参加支援団体（事業者）や当事者からお話を聞くことにより、私た

ち（社会）のやるべきことは何か、社会的支援とは何かを考えました。

■第1回「福祉車両との出会いから」

講師 小林 勇さん（福祉車両のオートフォーラム 代表取締役）



福祉車両に取り組んだ経緯や、はじめてのお客さんとのエピソードを交えて話していただきました。「この仕事を始めてよかった。みな

さんも今日の講座で知っていただいた知識を、埋もれさず事のないように活用してください」とメッセージをいただきました。



■第2回「人と人との出会いから」

講師 山本 和志 さん（有限会社スリーホープ 代表取締役）



誰にでも優しい
店舗を！

「障がい者だからと考えたことはありません。」と話された山本さん。

人と人とのつながりを大事にして相手を思いやることは、障がい者や健常者に関係なく必要なことだと話されました。ハード面でできないことも従業員の対応で解決できる「すべての人に優しい店舗を」という想いで経営にあたっておられます。今後は、障がい者就労支援も目指して頑張っていきたいと話されました。

※この回の参加者からの意見で、お店のフィールドワークを実施しました！（第4回）

■第3回「障がい者差別とのたたかいと権利確立の歩み」

講師 藤井 貢 さん（福山市視覚障害者福祉協会）

途中で視覚障がい者となった講師は、自らの障がい者差別とのたたかいと、誰もが生きやすい世の中を形成するために、何ができるかを自分の問題と捉えてほしい。自身も駅のホームから転落したり、衆議院選挙や裁判官国民審査などの情報がわからなかったりと国民が保障されている権利が奪われていると訴えられました。



■第4回「フィールドワーク（第2回講師の店舗見学）」

Q. お店がバリアフリーではないので、車椅子のお客さん来店した時スタッフが抱えて席まで連れていかれるそうですが、怖がる方はどのようにしてますか？

A. 店の前にもスロープを付けたかったが設置条件等の関係で改修できなかった。車椅子のお客さんの場合は男性スタッフが背負うか、椅子に座ってなるべくトイレの近い席に案内しています。

Q. ネットにココロのバリアフリーのお店と掲載して利用者は増えましたか？



繁華街にある店舗にはスロープ設置できない



車椅子でも入れるよう女性用トイレは広め

また、心もバリアフリーの店というマークを作り、市内に広がっていけば良いと思います。

A. 問い合わせはあります。来店された場合は他の方と同様に利用してもらっています。店側としてはバリアフリー対応ということ、今後はアピールしていきたいと思います

Q. 新採用の店員さんには、どのように取り組まれていますか？

A. 個々の状況に合わせ細かく対応するよう研修しています。障がい者の人が「手伝って」と言い易いお店になるよう心がけています。

参加者の声

【第1回参加者】

福祉車両というと自分の生活には関係ないと思っていました。よくわからなかったら講師の会社に電話してみます！

【第3回参加者】

「わたしたちのことは、わたしたちに決めさせて」という話が印象的でした。また、全盲の人にできる仕事は何かと聞かれたら即答できなかった。社会進出というけれど、何をもちて社会進出なのか。その人その人の得意・不得意のようなものだと感じた。自分にできることは何か、自分が学んだことを他の人に伝えることも重要だと思います。

子どもの“生きる力”になれるゼミ

■第1回 『子どもの現状①』～学習支援の取り組みから～

講師 木村 素子さん（NPO法人学習支援ヴァパウス代表者）

“勉強がツール”と一緒に
集まり、遊ぶ場をつくらう

「経済格差」が「学力格差」を
うむといわれているが、それだけ
だけでなく、「社会経験」を不足させ、
「希望」や「やる気」が育たない
など様々な影響がある。

学習環境が整い、子ども自身
に学ぶ「目標」と「意欲」があれば、
何からでも学ぶことができる。

従って、学べる居場所を作ることが
大切である。



‘子どもの“自ら学ぶ力”を育てたい

- 「自立心」と「自尊感情」が育つ指導
- 「教える」のではなく、自ら気付かせ、考えさせ、行動させる
- 子どものやる気を促す伴走型の見守りと声かけ
- 『PDCA法』^(※)を繰り返す学び方
- 学齢を超えた、子ども同士の居場所づくり
(安心して夢や悩みを話せる空間／勉強以外の表現・発散できる場所)

ワークショップ後の参加者の声

- こんな支援があったらいいな
 - ・間違いを理解してくれる空間
 - ・夢や悩みを語り共有できる子どもたちの居場所
- 私にできること
 - ・信頼されるおとなになりたい
 - ・あたたかい地域や居場所づくり
 - ・子どもに希望の持てる声かけ

(※) PDCA法… Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Action (改善)
を繰り返すことで、効率や成果を改善していく手法

■第2回 『子どもの現状②』～居場所づくりの取り組みから～

講師 佐藤勝則さん（社会福祉法人「ゼノ」少年牧場
未来（あした）も笑おうプロジェクト プロジェクトリーダー）



気になる子どもの姿

- ◆生活困窮な子
- ◆コミュニケーションが苦手な子
- ◆不登校の子
- ◆心が不安定な子
- ◆障がいのある子
- ◆外国籍の子 など



“居心地いいね”という居場所づくり

- ◆子どもの未来応援事業として、Come 叶夢ハウスを開催。
- ◆子どもたちの夢が叶い、胸をはって笑顔で過ごせる人生を！
- ◆仲間といっしょに調理をする場、遊ぶ場、学ぶ場をつくる。
- ◆積み重ねの中で、いっしょに活動できるようになってきたり、誘いあって学校に行けたりといううれしい変化がで始めている。笑顔も増えた。
- ◆地域の中でつながり、共に生きる共生社会をめざそう。

学び～私にできること





- ◆自分らしく生きていける居場所づくり。
- ◆悩みを共感できる場や心がほぐれる場が必要。
- ◆地域でのあたたかい見守りや声かけが大切。
- ◆いっしょに遊ぶ、楽しむ。
- ◆私自身が学んでいくこと。そして、とにかく行動しよう。
- ◆居場所づくりに参加しようと思う。子どもや家庭の背景をまずは知る。

■第3回 先生・家庭・窓口の人をサポート ～LGBT当事者が語る“知ってほしいこと”～

講師 井上 鈴佳さん (LGBT当事者・元保健室の先生)

性は多様に満ちている

性とは、4つの要素が複雑に組み合わさって決定されている。あなたはどこに位置しますか？

- 生まれついた体の性別
女性  男性
- 自分が思う性別 (性自認)
女性  男性
- 好きになる性別 (性的指向)
女性  男性
- 表現する性別 (服装, メイクなど)
女性  男性

LGBTを中心としたセクシュアルマイノリティの人の数は、人口の7.6%といわれており、約13人に1人の確率になる。当事者には、周囲の人間関係や社会制度の摩擦により、不登校、自傷、自殺未遂などの問題が二次的に生じているケースがあり、ゲイやバイセクシュアルの男性の65.9%が自殺を考えたことがあり、14%は自殺未遂をした経験があるという。

命を守りたい

当事者の命を守りたいとの思いからLGBTと性の多様性について小・中・高等学校で出張授業を行っている。授業後には必ず個別の相談時間を設けているが、必ず一人は当事者の子がカミングアウトをしてくれる。その子たちに「変じゃないよ。そのまま大丈夫だよ」と伝えている。

「自分らしく」でいい！

彼氏、彼女、男らしい、女らしいなどの言葉は生き方を狭める。その人がどう考え、何を望んでいるのか、気持ちに寄り添ってほしい。自分の性にプライドを持って生きていい世の中に。

カミングアウトしてもらったら？

まず、話してくれてありがとうと伝え、何か困っていることはない？誰に話せて、誰に話したくない？を必ず確認する。了解なく他者に話すことは、生死に関わることなので絶対にしないでほしい。そして、LGBTについて理解し、「アライ (ALLY) =味方」になってほしい。

学び～私にできること～

- ◆「カミングアウト」って言葉はTVでよく聞いていた。これからは、カミングアウトしてもらえる自分づくりに精進したい。
- ◆LGBT学習を学校現場でどんどん取り入れてほしい。
- ◆学校の中で相談できる場、教員がいてくれるといいな。
- ◆LGBTの理解を求めるため啓発活動をおこなう。
- ◆LGBTの人は見えていないだけでいいのではない。正しく学んでALLYになりたい。



LGBTって何？

…… 代表的な性的少数者の頭文字を綴ったもので、性的少数者の総称として使われている。

- L (レズビアン) …… 女性を恋愛や性愛の対象とする女性
- G (ゲイ) …… 男性を恋愛や性愛の対象とする男性
- B (バイセクシュアル) …… 男性、女性両方とも恋愛や性愛の対象とする人、又は同性か異性かの問いそのものを拒否する人
- T (トランスジェンダー) …… 生まれついた性 (生物学的な性) と性自認が一致せず、自らの性に違和感を持つ人

■第4回 ワークショップ「私はどうする？」

～子どもたちの生きる社会の中で～

最終回は、実際にできるサポートが見つかるよう話し合いました。



気になる子どもの姿

Aグループ

- ◆学校に行けてない子
- ◆仕事に行けてない子

Bグループ

- ◆LGBTの子
- ◆自尊心が持てない子
- ◆将来が想像できない子

Cグループ

- ◆地域や集団になじめない子
- ◆どうせ僕なんて……
と
思っている子

子どもの姿の関係性

見えてきた！ 複数の生き辛さを抱えている子どもの様子

- ◆貧困 ⇄ 社会経験が少ない ⇄ 自尊心が持てないなど、生き辛さの要素が複雑に絡みあっている。
- ◆〇〇らしさ・あるべき論 ⇄ ありのままに生きにくい。
- ◆おとなの影響・心が満たされない ⇄ 心の貧困など…

こんな支援があったら…

居場所・声かけ・知り合う機会、支援の在り方はシンプル！

- ◆様々な形の居場所が必要
- ◆子どもと知り合う機会を
- ◆LGBT教育が学校に必要
- ◆高校入試や免許取得などの時期に学習支援を…
- ◆地域で声かけを…
- ◆家庭と地域の交流など…

まとめ (参加者の声)

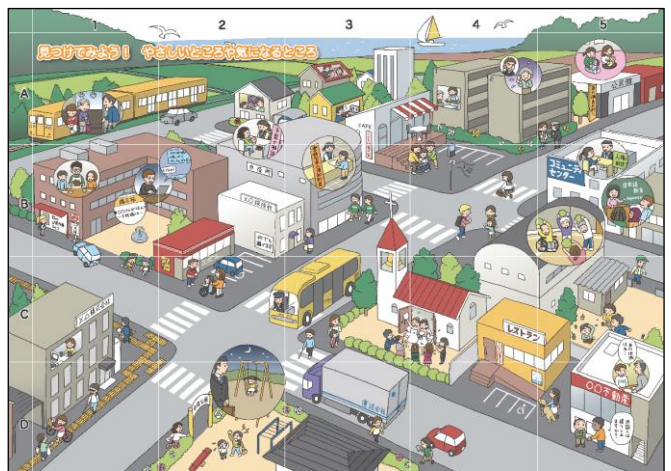
- ・ぜひ、子どもの貧困等に関する講座を続けていただければと思います。
- ・自分に何ができるのか、考えさせられました。
- ・できることから少しずつ考えていきたいと思っています。

人権大学 閉講式 「学習から，行動へ」



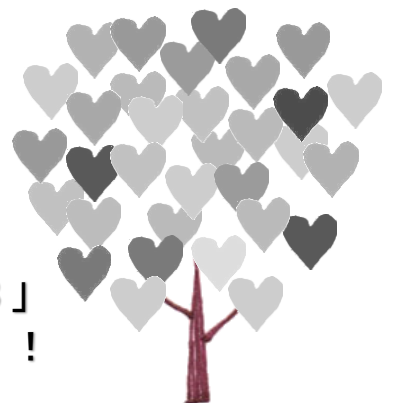
「ふくやま人権大学 2017」参加者を対象に，閉講式を実施しました。前半は，今年度の人権大学ゼミについて，それぞれ報告を行い，全体で学習内容を共有しました。参加したゼミについては振り返りを，参加していないゼミについては新たな人権課題について触れる機会となりました。

後半では，人権啓発リーフレット「気づきからはじまる つながりの輪」を用いてグループワークを行い，人権大学のさまざまな人権課題について考え，学習する機会となりました。また，異なるゼミに参加していた参加者同士の交流を図る場にもなりました。

最後には，参加者全員に修了証や受講証明書を渡し，閉講式を終了しました。

「ふくやま人権大学2018」もお楽しみに！！

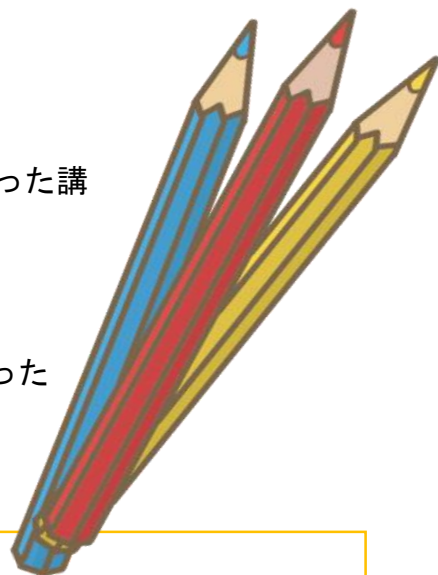


研究講座「1UPゼミ」

この講座は、人権大学受講者を対象に2017年度から始まった講座です。大きく次の2つのことを目的に実施しています。

- ① 人権について継続して学習し話合う場を設ける
- ② 学習するだけでなく行動につなげる

各回のテーマは、参加者の希望から決定し、みんなで持ち寄った資料をもとに話し合いながら研究をします。



第1回

課題提起と交流 「人間のありよう～内省する心～」

第1回は初めての開催ということで、課題提起と交流を行いました。課題提起では「人間のありよう～内省する心～」というテーマで、社会の変化に左右されない「人権文化が根付いた地域社会」を築く重要性や、幅広い人権課題についての継続的な学習の必要性について考えました。

後半の交流では、参加者の自己紹介や、「人権」との出会いや想い、現在の取組みなどについて交流しました。参加者からは「当事者から学び伝える（ピアスピーカー）になりたい」「“人権”を自分以外に広めていき人権について考えるきっかけづくりの手伝いがしたい」など前向きな意見が出ました。



第2回

研究テーマ「オリンピックと人権」



第2回は研究テーマを「オリンピックと人権」とし、オリンピズム根本原則やオリンピック憲章を読み解くなかで、2020年に開催される東京オリンピックに向けて、どのような取組みが必要か、私たちにはどのようなことができるかを話し合いました。また、オリンピックコマーシャルやオリンピックにかかわる人権問題、近年施行された人権法令などについて議論しました。

講座の最後には、人権関係講座のお知らせや、参加者それぞれが取り組んでいる活動の紹介など情報交換を行いました。



2018 年（平成 30 年）7 月発行

【問合せ先】

福山市市民局まちづくり推進部

人権・生涯学習課

TEL 084-928-1006